

2026年3月期(第93期)

期末 決算概要

株式会社ユニバンス

<https://www.uvc.co.jp/>

2026年5月14日

連結経営成績

単位:億円	2024年度		2025年度		前期比較	
	通期		通期		増減額	増減比率
売上高	539.2		565.4		+26.2	+4.9%
営業利益	40.3		50.1		+9.8	+24.4%
経常利益	43.9		52.6		+8.7	+19.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	29.5		9.2		△20.3	△68.7%
為替レート (期中平均)	2024年度	2025年度	前期比較			
	通期	通期	増減額	増減比率	為替傾向	
円/ドル	152.60	151.10	△1.50	△1.0%	ドル安	
円/100ルピア	0.949	0.909	△0.040	△4.2%	ルピア安	
円/パーツ	4.40	4.68	+0.28	+6.4%	パーツ高	

対前期比較:増収増益(当期利益は減益)

売上高

- 一部顧客におけるエネルギー関連コスト高騰を背景とした最終需要減速に伴い、日本拠点で減収影響を受けたものの、米国追加関税発動前の駆け込み需要や為替影響、価格是正の進展により、増収となった。

営業利益

- 賃上げによる労務費と仕入れコストの増加等の減益影響があったものの、売上増加に加え、円安による為替影響や収益改善活動による利益増加影響により、増益となった。

当期利益

- 当社における収益性低下に伴う減損損失の計上に加え、遠州クロムでの土壌・地下水汚染対応に伴う減損損失および環境対策関連費用、ならびに投資有価証券評価損の計上により、大幅な減益となりました。

事業別/拠点別 売上増減(前年同期比)

・売上高:外部顧客への売上高

・為替換算差の影響を除く

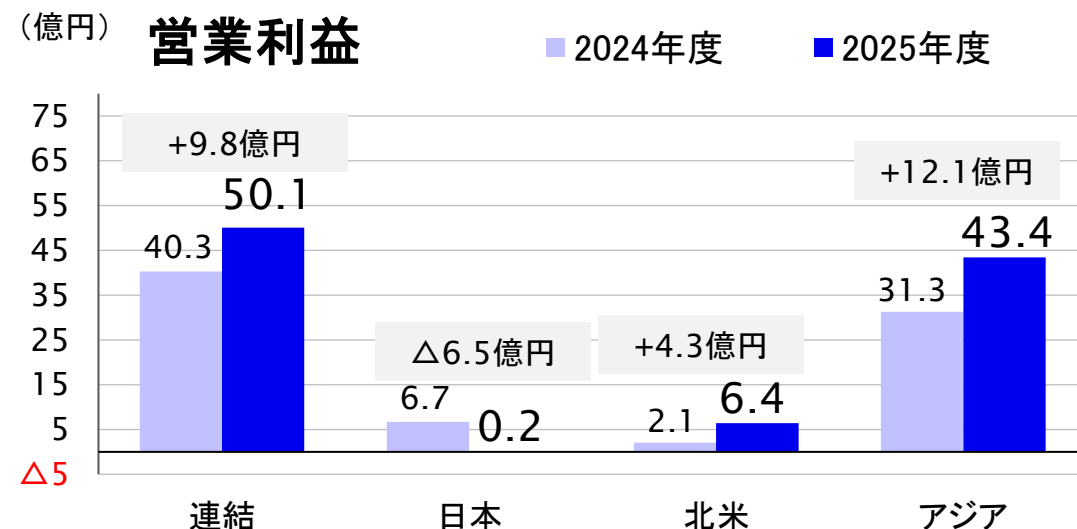
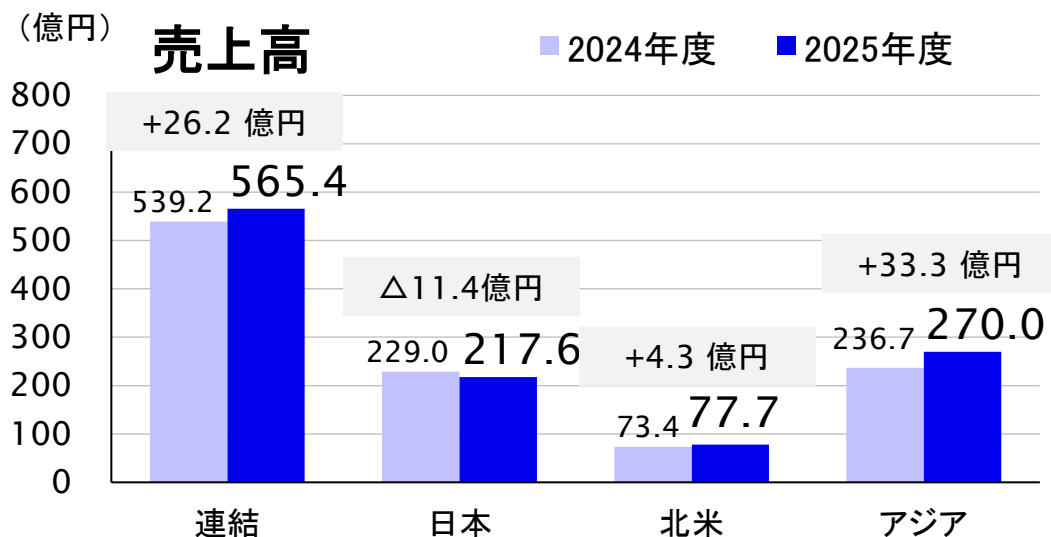
事業	部品群	全体 (率)	拠点			
			日本	米国	インドネシア	タイ
ユニット	FR用四輪駆動装置	107%				107%
	FF用四輪駆動装置	108%	102%	0%		112%
	農機用トランスミッション	77%	77%			
	マニュアルトランスミッション	83%	83%			
	その他	110%	112%	93%		
	計	102%	91%	70%	—	109%
部品	CVT用部品	113%	114%	113%		
	AT用部品	98%	98%			
	エンジンギヤ他	121%	110%	147%		
	その他	96%	102%	96%	71%	
	計	107%	107%	109%	71%	—
合計		104%	99%	107%	71%	109%

ユニット事業:日本拠点における農機用トランスミッションの需要減速による売上減少があったものの、タイ拠点の米国向け製品において、米国追加関税の駆け込み需要による売上増加や、原材料価格上昇に対する販売価格是正の進展により増収となった。

部品事業:米国市場での顧客の好調な販売に伴う売上増加により増収となった。

拠点別：連結売上高・営業利益(前年同期比)

・売上高:外部顧客への売上高



連 結 :【増収増益】

日 本 :【減収減益】

北 米 :【増収増益】

ア ジ ア :【増収増益】

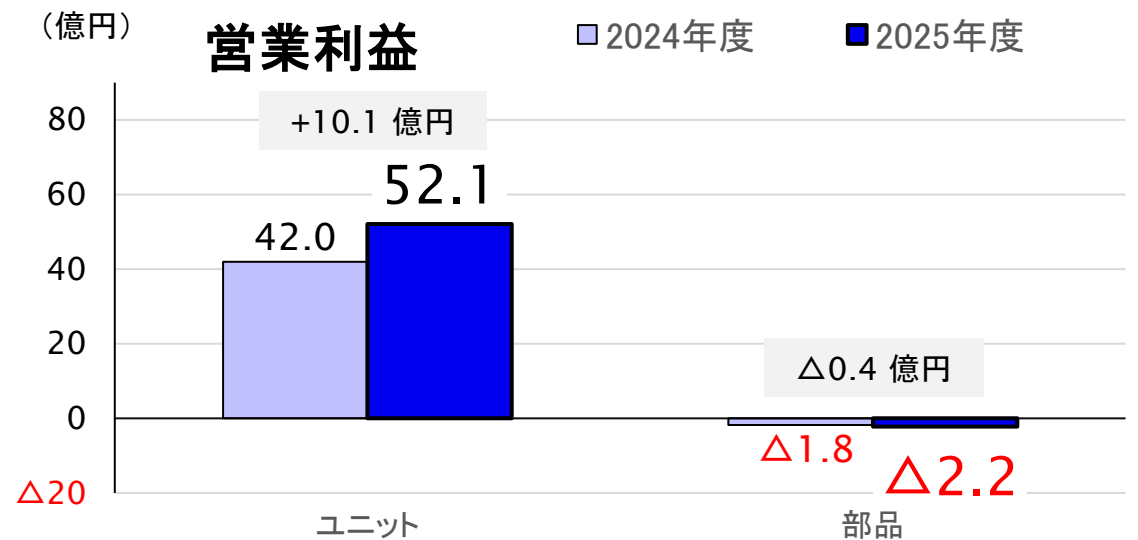
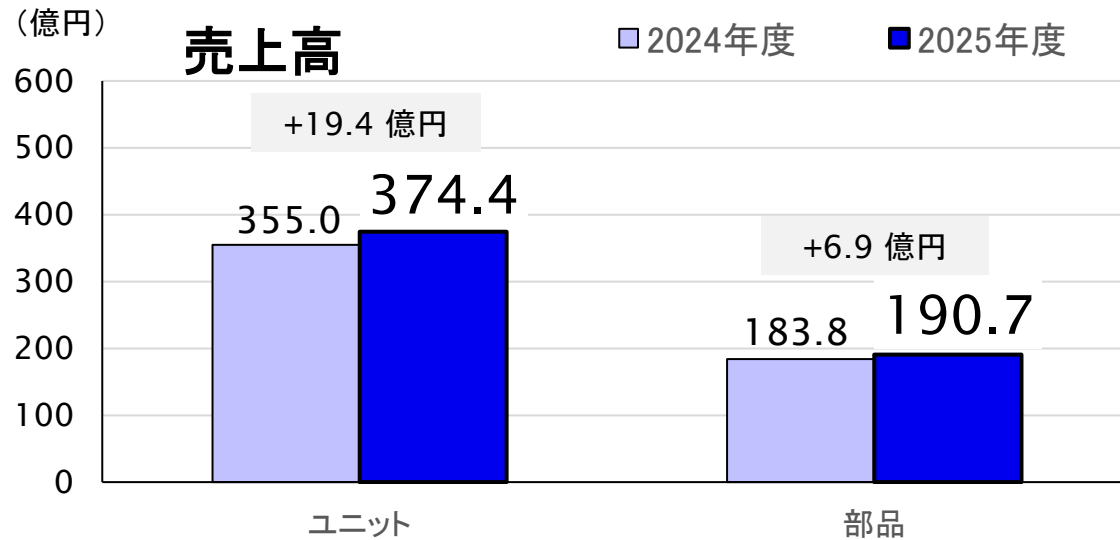
・農機用トランスミッションの需要減速や、一部顧客の売上減少等の減収影響に加え、賃上げによる労務費と仕入コストの増加等により減収減益となった。

・顧客の好調な販売に伴う売上増加に加え、工程改善活動による付加価値向上等の利益増加影響もあり増益となった。

・米国追加関税発動前の駆け込み需要による売上増加により増収増益となった。

事業セグメント別：連結売上高・営業利益(前期比)

・売上高:外部顧客への売上高



ユニット:【増収増益】

・日本拠点における需要減速による減収はあったものの、米国追加関税発動前の駆け込み需要による売上増加や、タイパーツに対する円安に伴う為替換算影響等により売上増加
 原材料価格上昇に対する販価是正、アジア拠点における売上増加、為替換算影響等もあり、増益となった。

部 品:【増収赤字拡大】

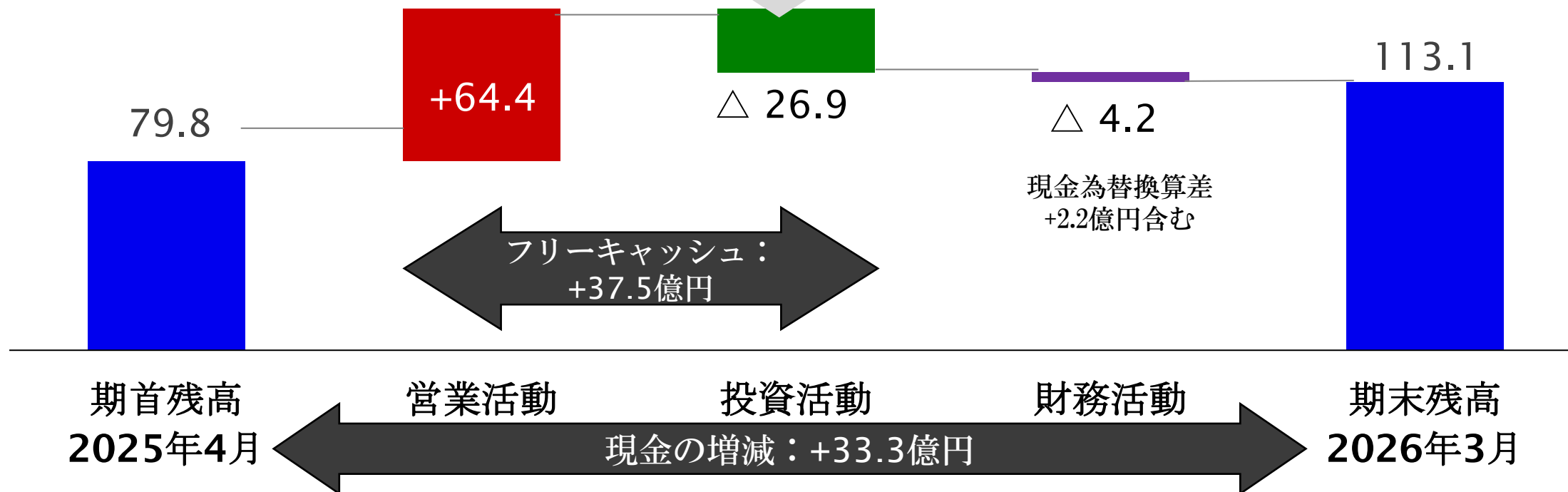
・米国市場での顧客の好調な販売に伴う売上増加により増収となった。
 操業増や工程改善活動による付加価値向上等の利益増加影響はあったものの、製品保証引当金の計上や賃上げによる労務費と仕入れコストの増加等により赤字拡大となった。

連結キャッシュフロー

(単位: 億円)

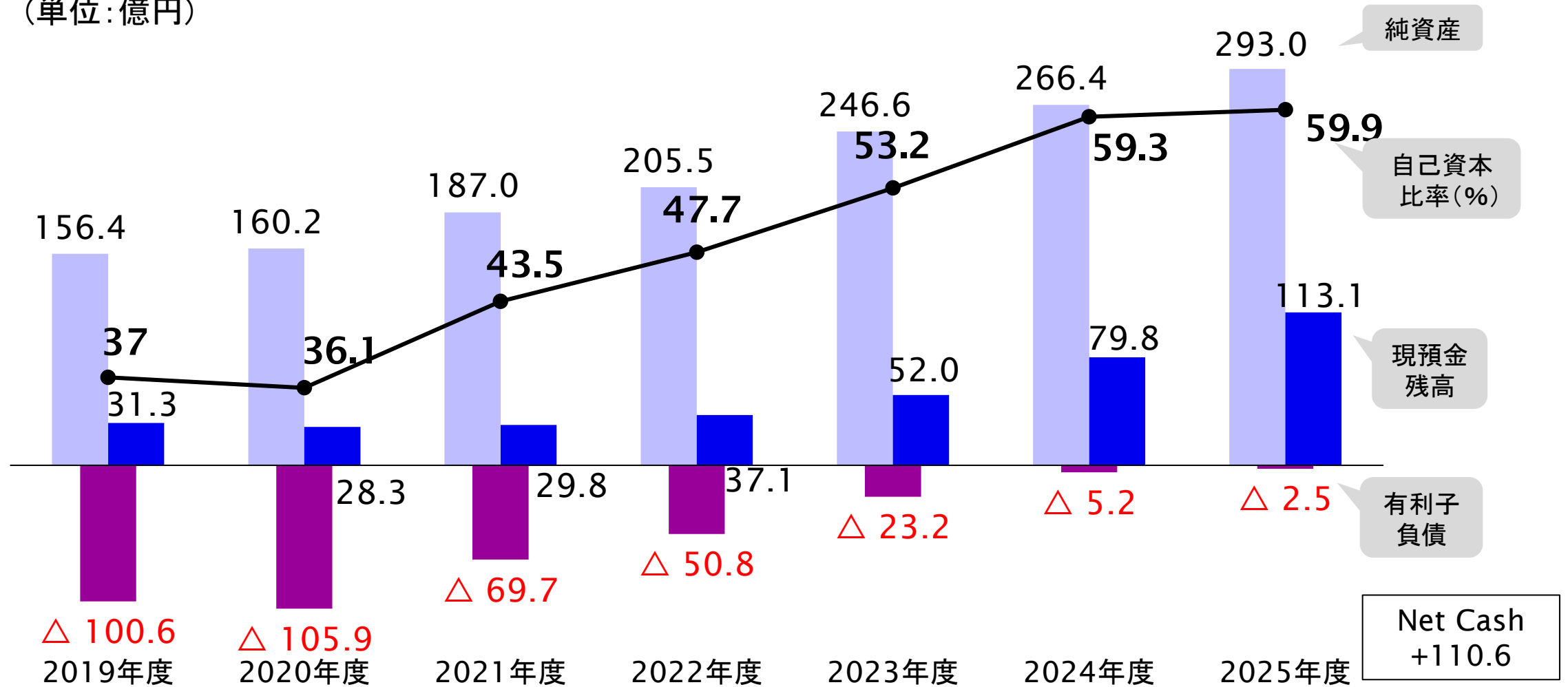
【主な投資内容】

- ・日 本：△20.7億円
 - 競争力強化 : △5.0億円
(試作強化、ものづくり改革)
 - 環境対策 : △3.0億円
 - その他出資・更新等 : △12.7億円
- ・海 外：△6.2億円
 - 競争力強化 : △1.7億円
 - その他更新等 : △4.5億円



連結有利子負債・自己資本推移

(単位: 億円)



2026年3月期通期 業績予想と実績との差異 および期末配当・増配

単位:億円	2026年3月期 通期予想	2026年3月期 通期実績	予想との差異	
			増減額	増減率
売上高	560.0	565.4	5.4	1.0%
営業利益	40.0	50.1	10.1	25.3%
経常利益	40.0	52.6	12.6	31.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	15.0	9.2	△ 5.8	△ 38.5%
配当金				
第2四半期末	8円	8円	+0円	—
期末	8円	10円	+2円	—
合計	16円	18円	+2円	—
為替レート通期平均				
円/米ドル	150.00	151.10	1.10	0.7%
円/100ルピア	0.900	0.909	0.009	1.0%
円/バーツ	4.60	4.68	0.08	1.7%

- 為替が想定より円安で推移したことによる為替換算影響や、製品保証引当金の取り崩し等の影響により、売上高、営業利益及び経常利益ともに前回予想を上回りました。
- 一方で、当社において事業の収益性低下がみられたことによる生産設備等の減損損失と、当社が保有する投資有価証券の実質価額下落による減損処理を行い、親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を下回りました。
- 見通しに対し当期利益は減益であるが、営業利益は増益でありキャッシュも増加している。また、DOEを指標として継続的に配当を向上していくため、2円/株増配し、通期配当を18円とする。

2027年3月期 通期連結業績予想および配当予想

単位:億円	2026年3月期 通期実績	2027年3月期 通期予想	前年度比較	
			増減額	増減率
売上高	565.4	500.0	△ 65.4	△ 11.6%
営業利益	50.1	30.0	△ 20.1	△ 40.2%
経常利益	52.6	30.0	△ 22.6	△ 43.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9.2	20.0	10.8	116.7%
配当金				
第2四半期末	8円	10円	+2円	—
期末	10円	10円	+0円	—
合計	18円	20円	+2円	—
為替レート通期平均				
円/米ドル	151.10	150.00	△ 1.10	△ 0.7%
円/100ルピア	0.909	0.880	△ 0.029	△ 3.2%
円/バーツ	4.68	4.70	0.02	0.4%

- 来期は営業利益ベースで減収減益を見込むものの、当期純利益は前期の減損計上による低水準からの反動により増益となっている。
- 実質的な収益力は減益傾向にある中、企業価値向上を目的にROE向上と財務健全性のバランスを重視しつつDOEを指標とした安定的な株主還元を継続する方針のもと、業績および財務状況を総合的に勘案し、配当は前期末水準に据え置き20円/株(第2四半期末10円/株、期末10円/株)とする。